

令和4年度 第1回 学校運営協議会議事録要旨

下野市立古山小学校

1 日時 令和4年5月17日(火) 10:00～11:00

2 会場 古山小学校 ミーティングルーム

3 出席者

○出席委員 地域住民(再任) 小林 靖
地域住民(再任) 中川 賢一
保護者(再任) 須藤 勇樹
地域住民(再任) 大垣 美穂
保護者(再任) 関口 保洋
地域住民(新任) 橋本 英男
地域住民(新任) 青木 浩美
保護者(新任) 紺野 智史
校長 秋山 貴子

○出席職員 教頭 生澤昌幸
教務主任 白石孝子

○その他の出席者 地域学校協働活動推進員 橋本 俊明
学校教育課指導主事 土田 礼巳

4 承認事項 ・令和4年度古山小学校学校運営協議会 委員長、副委員長の選出
・学校経営方針

5 内容

- 教頭 ◇学校運営協議会委員の役割等概要について (資料参照)
- ・学校評議員会は、校長のアドバイザーとして校長の求めに応じて校長と協議ができるということに対して、学校運営協議会は、学校長も学校運営協議会の一委員であり、学校長の学校運営に対しての意見や変更点などを教育委員会に具申することができる。
 - ・今年度の日程、内容については資料のとおり。会議以外にも学校行事等では招待状を送らせていただく。是非、児童の活動の様子を見てもらいたい。
 - ・昨年は、教育委員会に具申しなかった。一昨年具申した学区の再検討について、新しく委員となった方には資料を配付した。今年度、何かあればよろしくお願ひしたい。
- ◇委員長、副委員長の選出について
- ・委員長 : 小林 靖 委員
 - ・副委員長 : 中川 賢一 委員
- ※全委員一致で承認
- 校長 ◇学校経営概要の説明 (資料参照)
- 質疑応答
- 中川 ・昇降口の靴箱の靴の入れ方について成長の過程が見え、6年生では、きれいにそろっている様子に感心した。落ち着いた学校生活の様子がうかがえた。石橋中学校の自転車置き場も整頓されている。
- ・昨年度の学校運営協議会でも話題となったが、タブレットを使用するようにな

- り、紙離れはしていないか。紙ベース、電子書籍では、どちらがいいと考えているか。
- 校長 ・ノートに文字を書くということは、以前と変わらず大切にしている。どちらも使用している。
- 教頭 ・タブレットは、文房具の1つとして使用する。決して、文字離れをするということではない。
- 中川 ・本は、その手触り感も一緒に残る。タブレットより定着すると考える。漢字は苦勞して書いた方がよい。紙がよいのではと思う。
- 小林 ・昨年度の話で、教室が足りないということがあった。要望の結果は、どうなったか。
- 教頭 ・今後、本校は児童数が減っていく。また、校舎の増設等は市の財政から難しいとの返答があった。
- 小林 ・現状としては、足りてない。他校と比べて、平等が保たれていない。今後もプッシュしていかなければならない。
- 中川 ・言い続けていくことが必要。
- 大垣 ・雨漏りも、ひどい。
- 校長 ・財政面、ハード面については、市の考えがあるのでここでは議論しない。学校でできることに取り組んでいきたい。ソフト面を充実させていこうと思う。
- 須藤 ・いじめについて。現在本校でいじめはあるのか。組織的対応とは、どのようなことを行っているのか。
- 校長 ・いじめ不登校対応会議を月1回行っている。そこで、悪ふざけか、それ以上かその都度判断している。
- 教頭 ・現在、いじめからの不登校は、いない。
- 校長 ・いじめと判断した場合、解決した後も3か月単位で確認している。また必要に応じて、その都度緊急の会議を開いている。
- 教頭 ・小さなことでも、いじめとして市に報告している。
- ※学校経営方針について、全委員一致で承認
- 教務 ◇本年度の行事予定について（資料説明）
○質疑応答
- 小林 ・教育相談は全員一人ずつ行うのか。
- 教頭 ・アンケートを採って、それを確認しながら一人ずつ行っている。
- 小林 ・問題が上がることはあるか。
- 教頭 ・上がることはあるが、重大な問題が突然上がることはない。教育週間に限らず、日頃から確認をしている。児童指導主任、教育相談主任、特別支援教育コーディネーターが毎週情報交換をしている。
- 中川 ・一人一人にかける相談時間はどのくらいか。
- 教頭 ・10分程度。
- 中川 ・実施することで、抑止力にもなる。
- 教頭 ・動動会は平日でいいか。
- 中川 ・それがいいと思う。
- 校長 ・コロナが終わったら、市の施設なども利用して全校児童一気にやりたい。また、たくさんの人に見ていただきたい。
- 関口 ・国分寺小は昨年、市の運動公園をかりてやった。よかったと聞いている。
- 中川 ・今後のために、情報を得ておくといいのでは。

校長	・今後、検討していく。
青木	・昨年度、平日に実施してみてどうだったか。
教頭	・平日に実施したのは、人数を減らすことも目的の1つだった。保護者の意見はいろいろ。給食があるのはいいということが多かった。
青木	・コロナ対策は一番だが、子どもたちがどう思っているか。子どもの意見も吸い上げてはどうか。
須藤	・古山小祭はどうするのか。やめるのか。
教頭	・前校長の意向もあり、今年度は計画していない。
校長	・コロナの状況をもう少し見ていきたい。働き方改革の観点もある。本校職員は退勤時刻の遅い職員が多い。早く帰るようと言えないぐらいよくやっている。コロナだけでなく、行事の精選をしていく必要がある。
教頭	◇事務連絡 ・議題があったら、小林会長又は教頭まで知らせていただきたい。 ・教育活動支援ボランティア「古山サポートネクスト」の募集をしている。図書整備、安全ボランティア等、学校運営協議会委員にも引き続き協力いただく。
橋本俊	◇地域学校協働活動について ・教員の働き方や学校の課題、教員の過重労働の現実等、学校だけではどうにもできない問題を地域総ぐるみで解決を図っていきたい。これからは、様々な世代、地域の団体、企業が相互に連携し合って取り組んでいく。 ・地域学校協働活動は今年度で5年目。必要な支援を今後協議し、協働活動につなげていく。地域と学校の協働体制。公民館はたくさんの世代が集まり、生涯学習のスペシャリストが集まる。是非活用してほしい。
青木	・地域の方のボランティア（古山ネクスト）の人数は、どのくらいか。
教頭	・保護者も含めて、80人。
橋本英	・自分もボランティアで毎朝交差点に立っている。雨の日は休もうかと思っていたが、子どもが行くんだから、自分も行かなければという気持ち。立っていると、危ないところがわかるようになった。子ども目線だと、こんなに危ないということがわかった。交通ルールを守らない人が多い。信号が青なのに突っ込んでくる。自分の命を守るために、左右の確認など、どこまで児童に言っているのか悩んでいる。飛び出す児童もいる。ボランティアは責任が難しい。毎日は大変である。
教頭	やる気がないと、ボランティアは難しい。人数が多いとありがたい。 ・先日、通学路点検と、子どもを守る家70件の確認をした。また、ライオンズクラブの寄付金で、黄色の安全旗を購入した。児童がそこに絵を描き、オリジナルの旗を作成中。家庭の協力を得て、児童が作った安全旗を持って、通学路を歩いたり、立哨をしていただいたりする予定である。
青木	・保護者以外の発掘の仕方を今後、学校運営協議会で検討していけるといいと思う。

以上